

| 令和5年度 第1回魚沼市総合教育会議 会議録 | | | |
|------------------------|--|--|----|
| 1 日時 | 令和5年11月14日(火) 15:00~16:40 | | |
| 2 会場 | 魚沼市役所 本庁舎 議会会議室 | | |
| 3 出席者 (敬称略) | 魚沼市総合教育会議 | | |
| | 役職 | 氏名 | 出欠 |
| | 市長 | 内田 幹夫 | ○ |
| | 教育長 | 樋口 健一 | ○ |
| | 教育長職務代理者 | 星 麻衣 | ○ |
| | 教育委員 | 八木 由美子 | ○ |
| | 〃 | 浅井 誠哉 | — |
| | 〃 | 桑原 哲哉 | ○ |
| | | 魚沼市 事務局 局長 吉澤国明 学校教育課長 森山丈順 生涯学習課長 青柳洋介 子ども課長 関 祐樹 管理指導主事 五十嵐哲也 管理指導主事 角谷文昭 統括指導主事 新澤美和子 教育センター次長 須佐光行 学校教育課庶務係長 井口啓一 事務局 秘書広報課長 山田庸子 広報広聴係長 広瀬 大 | |
| 4 議事内容 | 市長あいさつ 議事1 学区再編について 議事2 保育園の民営化について 議事3 その他 | | |
| 5 配布資料 | 次第及び関係資料 | | |

6 会議録

市長あいさつ

(内田市長)

新型コロナウイルスの感染症分類が5類に移行し、学校や保育園の行事なども徐々に、以前の状況を取り戻しつつあると認識している。関係者の皆様からは、この厳しい局面を乗り切るべく、多大なるご理解と協力をいただいたものと感謝申し上げます。

昨年、一昨年と「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立」「部活動の地域移行の具体的な方策」についてを議題として、話し合った。そこから生まれた「魚沼モデル」の発想があり、現在、教育委員会において取り組みを進めてきている。子どもたちのために、子どもが迷うことなく地域のみなさんとスポーツや芸術を学べるようにしなければならないと考えている。

本会議の議事は「学区再編」と「保育園の民営化」であるが、これは大変大きな課題であ

ると認識している。答えを出す会議ではないが、有意義なものとしたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

議事（１）学区再編について

（内田市長）教育委員会事務局から説明をお願いする。

（吉澤教育委員会事務局長）資料について説明

（内田市長）

30年以上前のお話だが、大沢小学校と井口小学校の統合の話が出ていた時、やはり地域や卒業生の方々の様々な思いがあり、また保護者も「少人数制が良い」「大人数制が良い」など様々な意見があり、学校の統合はなかなか難しかったように記憶している。そのころ、両地域の野球チームが合同で大会に出ることになった。これも様々な意見等があったが、いざ合同で大会に出てみると、子どもたちは何の屈託もない笑顔で野球を楽しんでいた。そんなことが、学校統合が進んだキッカケのひとつになったのかもしれない。

（桑原委員）

私も卒業校がなくなるという経験をしたことがある。校歌が歌えなくなるのは寂しい。しかし、これからは大幅に生徒数が減少する見込みである。そのような時期までに統合を考えなくてはならないのではないかと。国は、1学年3～4クラス程度が適正と示しているが、私も自らの経験からもそう思う。あまり小規模校は良くないと感じている。

（星委員）

私も1学年3～4クラスあった方が良くと思う。クラス替えができる環境が必要だと思う。少子化から「PTAもどうする？」という話も出ているが、統合が進めばそういう問題も解決する。

（八木委員）

かつて宇賀地地区では、保育園から小学校までの9年間、クラス替えもなく、全部同じ子たちの集団だった。やはり規模が小さいと、その中で固定した上下関係も出来てしまったり、部活等の選択肢もどんどん狭まったりする。少し大きな規模が望ましいと思う。

（樋口教育長）

去年の魚沼市の出生者数は132人であり、大変ショッキングだった。早急な学区の見直しが必要だと危機感を持っている。1学年2クラス以上は必要だと感じている。

しかし、学校は地域の拠点でもあり、小規模でも地域の灯を消すべきではないとの意見や考え方もある。また、人を増やす取り組みとして山村留学のような取り組みを進めているところもある。学区再編は、非常に難しい課題であるが、早急に地域と一緒に学区再編を考える委員会を設置して、今後の見通しを立てていかななくてはならないと考えている。

全市の学区再編については、広い視野が必要である。自分の地域の学校は無くしたくないと考えるのが一般的である。市全体と学区再編と、自分の地域の学校の統廃合の両方を考えるのは非常に難しい。丁寧に議論を観ていかないとと思っている。

市内の学校校舎等の改修状況についてだが、堀之内小学校校舎が建築から53年を経過するなど、軒並み50年以上経過している学校が多くあり、現在、順番に改修をしている。しかし、今後の大規模改修の前に、学区再編を視野に入れて、早急に市民参加の委員会等で

道筋を立てなくてはならないと考えている。

小学校は基本的には「残す」という考え方で進んできたが、入広瀬小学校は地域から声
が上がり廃校となった。宇賀地小学校では、現在、3年生4年生が複式学級となっている。

中学校は生徒数で教員数が決まる。規模が小さいと、全ての教科の先生が配備されない
という事実がある。授業数の少ない音楽や美術などは専任の先生が配属されないことが予
想される。よって、ある程度の規模が必要だと思っている。

(桑原委員)

魚沼市は、学区が広く、県内でも最大級であるので、ある程度覚悟を持ってスクールバ
スを使って学区を再編すべきであると思う。長野県の山間部などに比べれば、魚沼市は道
の程度が良く整備されている。中学校では色々な先生から学び、様々なものを吸収しても
らいたい。

(星委員)

中学校に関しては、ある程度の規模が必要ではないか。合唱コンクールなど、他のクラ
スと競い合うような場も必要だと思う。

(八木委員)

湯沢町の学校を視察したことがある。保育園から中学校まで同じ敷地内にある。様々な
年代の子どもたちが一緒に生活していた。あのような様子も良いなと感じた。

(樋口教育長)

学区再編を考えると、保育園と学校を併設する考え方もある。また、福祉施設と学校、
社会教育施設と学校というような複合的な発想も必要になってくると思う。

(内田市長)

生徒たちの移動手段、校舎等の建築経過年数、地域との関係性など、様々な課題がある
ことが分かったが、生徒同士が高め合って学ぶことができる環境づくりが必要であると思
っている。大幅な人口減少により、今までの考え方では対応が難しい。前例のない考え
方が必要ではないか。まず、親や地域の意向等を早急に確認することが必要だと感じた。

議事（２）保育園の民営化について

(内田市長) 教育委員会事務局から説明をお願いします。

(吉澤教育委員会事務局長) 資料について説明

(内田市長)

これまで検討や議論されてきた「公立保育園等再編計画」では、民営化の結論が出せな
かったのはなぜか。どんな理由があったのか。

(吉澤教育委員会事務局長)

主に「保育の質が下がるのではないか」「民間の手が上がるのか」「選択肢がない場合、保
育方針が心配」という意見などから成案に至らなかったものである。

(内田市長)

親は、保育園の特色や特徴を見定めて、保育園を選択する。民間参入が進めば選択肢が広
がる。また、民間保育園に対する国等の支援は、市で保育園を設置運営するより手厚い支援
があり、市としても助かるが、それだけを目的として民営化を進めるのは違うのかなと思う。

民間ができないことをカバーするのが公のすべきことである。

(桑原委員)

この地域の人は民間の保育に慣れていないと感じている。都会であれば選択肢がたくさんあり、親は保育園の特色や特徴を見て自分の子に合った園を選んでいる。民間保育の特色や特徴の説明が足りなかったのではないか。

(星委員)

魚沼市の人が、保育園を特色で選んでいるかは疑問がある。自分の地域にある保育園に行くというのが一般的である。また、保育園の時の友達は、先々まで重要であると感じている。

(八木委員)

堀之内地区や宇賀地地区ではそもそも選択肢がなかった。

(内田市長)

保育園民営化の説明会には、人が集まらなかったと聞いているが、なぜか。

(吉澤教育委員会事務局長)

「公立保育園再編計画説明会」と題して案内した。当該の候補保育園の民営化とは明記しなかったことも要因としてあるかもしれない。しかし、その計画も、その後、私立保育園が新設されたことと、私立幼稚園の新制度に移行しての継続が決まったことで保留となった。

(桑原委員)

人口減少と予算減の中で、民営化する市のメリットを教えて欲しい。

(吉澤教育委員会事務局長)

公立保育園を整備する際は市の負担 100%であるが、私立保育園の整備費に対しては、国の補助が 1/2、市 1/4、実施者が 1/4 の負担となり、市の負担は整備費全体の 1/4 となるため自治体としては有利となる点があげられる。財政面でのメリットは明らかだが、保育実施の義務は自治体にあり、少子化が進む中で受けてくれる民間事業者があるのかが課題である。

(樋口教育長)

民間活用は、自治体にとって格段に有利であるが、受け手がいるのかが最大の課題である。「市内の民間事業者と意向等の調査をすべきであろう」ということで、現在、サウンディング調査を実施中であり、民間活用の可能性を検討している。もし、民間で受け手がないという結論になれば、公立保育園の再編検討へと舵を切らなければならないと考えている。保育園選びは、「勤め先の近辺が良い」「両親が住んでいる近くが良い」という理由もあるので、保育園再編は、規模だけで考えるのは難しい。

(内田市長)

整備時の市負担 1/4 だけを市民に説明しても理解は得られないだろう。市の都合で説明するのではなく、民間ならではの特色・特徴や、休日や夜間の受け入れなどのメリットを丁寧に説明していく必要がある。

民間で受け手がないのであれば、公立保育園再編へと舵を切ることを判断しなくてはならない。施設の老朽化なども考えなくてはならない。

今日は、結論を出す場ではないが、保育園の民営化についても課題等が共有できたと思う。

議事（３）その他

（内田市長）

今年は猛暑であったが、暑さが原因で子どもたちが活動できないことがあってはいけないと思っている。委員の皆さんの意見を伺いたい。

（桑原委員）

熱中症対策を、来年以降も継続してほしい。国の基準である冷房設定温度 28℃設定では快適に活動することはできなかった。空調だけでなく、遮熱カーテン等のその他の手段の導入も必要だと感じている。

（星委員）

スクールバスに乗れる距離の子は良いが、基準の距離よりも学校に少し近いだけで合致せず、歩く子は苦勞している。わずかの距離の違いでバスに乗れない子はとてもかわいそうだなと思う。

（八木委員）

スクールバスを新たに通してほしいという訳でなく、そこを通過しているのに乗れない状況は、どうかと思う。

（内田市長）

「市長と語らん会」などで地域に出ると、スクールバスの話はとても多い。全員スクールバスに乗ることができる体制があったほうが良いのかもしれない。「子育てがしやすいまち日本一」になるためには「今のままでいい」と思うのではなく、「市民はこう思っている」ということを考えていかなければならないと思っている。

（樋口教育長）

学区再編については、まず、市民を含む検討委員会を早急に立ち上げて、検討を始めなければと思っている。また、コミュニティスクールは、子育てや教育を核とした地域づくりだと思っているので、地域創生課など他課とも連携することを考えていきたい。

（内田市長）

毎年行われる「子ども芸能祭」で披露される伝統芸能は素晴らしいと感じるし、部活動の地域移行と同様に、地域の人と一緒にそのあり方を考えていけると良いと感じている。芸能も文化もスポーツも、トータルでコミュニティスクールになればと感じている。

閉会